キズナエピソード

環はなび　6話

//ADV形式開始

//カフェ店内

［はなび］

「……帰ろうか」

［とびお］

「そうだな」

［とびお］

一通り話し終わったところで、

俺達は喫茶店を出ることにした。

//渋谷・外

［はなび］

「じゃあ私、タクシーで……」

［とびお］

はなびが道路に向かって手を挙げる。

だが、すぐに何かを思い出したようで、

その手を引っ込めた。

［はなび］

「……そうだった、チャリで来てたんだった。

お金、全部取られちゃったから」

［とびお］

「じゃあ、自転車のとこまで送ってくよ」

//暗転

［とびお］

とりとめもない話をしながら、はなびを送る。

駐輪場に止めてあった自転車は、ママチャリだった。

はなびには不釣り合いの、平凡な自転車だ。

［とびお］

はなびがサドルにまたがる。

そこまできて、はなびは俺をじっと見つめてきた。

［とびお］

「どうした？」

［はなび］

「……ねぇ、とびお漕がない？

私、後ろに乗るからさ」

［とびお］

「おいおい二人乗りか？　また警察に捕まるぞ？」

［はなび］

「ふふっ。

そのときは……今度こそ私を逃してよ」

［とびお］

「……そうだな。まかせとけ」

［とびお］

はなびが、やわらかい笑顔を浮かべる。

俺はそんなはなびを後ろに乗せると、

自転車を漕ぎ出した。

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

//渋谷の町並み

チャリを漕ぐ。

荷台に座ったはなびは、俺の体に腕を回していた。

その腕は華奢で、驚くほど弱々しい。

やっぱり女の子なんだな。

賭場で対面していたときは脅威を感じていたけれど、

今では、それすらも愛しく思える。

//次ページ

「そこ、右に曲がって」

「はいよ」

=========================スチルカットシーンB開始=========================

はなびに道を指示されながら、俺はチャリを漕いでいく。

「ふふっ……あははっ」

突然、はなびがが楽しそうに笑いだした。

//次ページ

「なに笑ってんだよ、とつぜん」

「いや、２ケツしてチャリで帰るとか、

こんなの初めてでさ。

……なんか普通だなって」

「そうか。今のうちに普通のことに慣れとけよ。

これからは普通になるんだろ、多分」

「そうだね……。

　あ、そこを左」

=========================スチルカットシーンB終了=========================

//次ページ

俺はチャリを漕ぐ。

進んだ距離が増えるに従って、

はなびの口数はどんどん少なくなっていった。

逆に、はなびが俺にしがみついてくる力は、

どんどん強くなっていく。

この時間が、いつまでも続けばいいのに……。

心から、そう思った。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//はなびの家

［はなび］

「……ここだよ」

［とびお］

俺の願いも虚しく、

幸せな時間は終わりを告げた。

［とびお］

自転車を止めた場所にあったのは、かなりの豪邸だった。

だが、見た目の割にどこか物悲しさがある。

明かりがついていないせいだろうか。

［とびお］

はなびが先に降りて門を開けようとする。

その間、俺はカゴからはなびの荷物を取り出していた。

［はなび］

「……なぁ、ボニーとクライドって知ってる？」

［とびお］

唐突に、はなびが話しかけてきた。

［はなび］

「まぁ、私も名前しか知らないんだけど」

［とびお］

「ははっ。なんだよ、それ。

ほら、カバンだぞっと――」

［とびお］

振り返る。

と同時に、はなびに胸ぐらをつかまれた。

そして、強引に引き寄せられて……。

［はなび］

「んっ……」

［とびお］

キス、された。

［はなび］

「んむ……んっ。……ふふっ」

［とびお］

口づけを終えた時、はなびは笑っていた。

傍目から見てもわかるほどに、その顔は赤かった。

［とびお］

「ど、どうしたんだよ。な、なにを急に」

［はなび］

「なぁ、とびお。

アンタは金が続く限り私のいいなりって言ったの、

覚えてる？」

［はなび］

「アンタの金がなくなったからさ。

もう、私とアンタの関係は終わりなのかな……？」

［はなび］

「私、金も人間関係も、すっからかんになったんだ。

……お願い。私を独りに、しないで？」

//18禁版の場合、ここでRシーン

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

//白い部屋

そこで意識が覚醒した。

「……あんな可能性もあったのかもしれない」

俺はひとりごちて、白い空間を眺める。

大きなスクリーンに、はなびとの思い出を幻視する。

//次ページ

ギャンブルに挑む強気なはなび。

俺をたしなめる毒舌なはなび。

スリルを楽しんで笑うはなび。

そして、弱々しく俺にすがってきたはなび。

……そのどれもが愛しかった。

//次ページ

自然と胸の奥から気持ちが沸き起こってくる。

はなびを守りたい。

俺は心にそう誓った。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//6話END